

平成 30 年 4 月 2 日
愛 媛 大 学

愛媛大学医学部附属病院 臓器・組織移植センターを設置

日々進歩を続ける医療現場において、末期臓器・組織不全患者に対する臓器・組織移植は、患者生命予後及びQOLを向上させる根本的治療として重要な役割を占めています。最近では、日本学術会議から「我が国における臓器移植の体制整備と再生医療の推進」という提言もなされていて、移植医療の重要度は益々大きくなると考えられます。

これらに伴い、腎臓・肝臓の移植実施施設でもあり、中国・四国地区では唯一となる羊膜バンク(カテゴリー I : 他施設に羊膜を供給できる)を擁する本院に、これらの移植医療を安全かつ円滑に遂行するための「臓器・組織移植センター」を設置しました。本センターでは、各臓器・組織の移植医療を推進するとともに、移植実施に必要不可欠となる移植コーディネーターの養成を図ります。

本センターの設置により、患者ケアの充実や移植医療の提供体制等を強化し、四国地区における臓器・組織移植の中核的な病院として、安心して安全な移植医療の実施に寄与できるものと考えています。

つきましては、是非、取材くださいますようお願いいたします。

記

設 置 日 : 平成 30 年 4 月 1 日
名 称 : 愛媛大学医学部附属病院 臓器・組織移植センター
センター長 : 高田 泰次 (たかだ やすつぐ) 教授
組 織 概 要 : 別紙をご参照ください

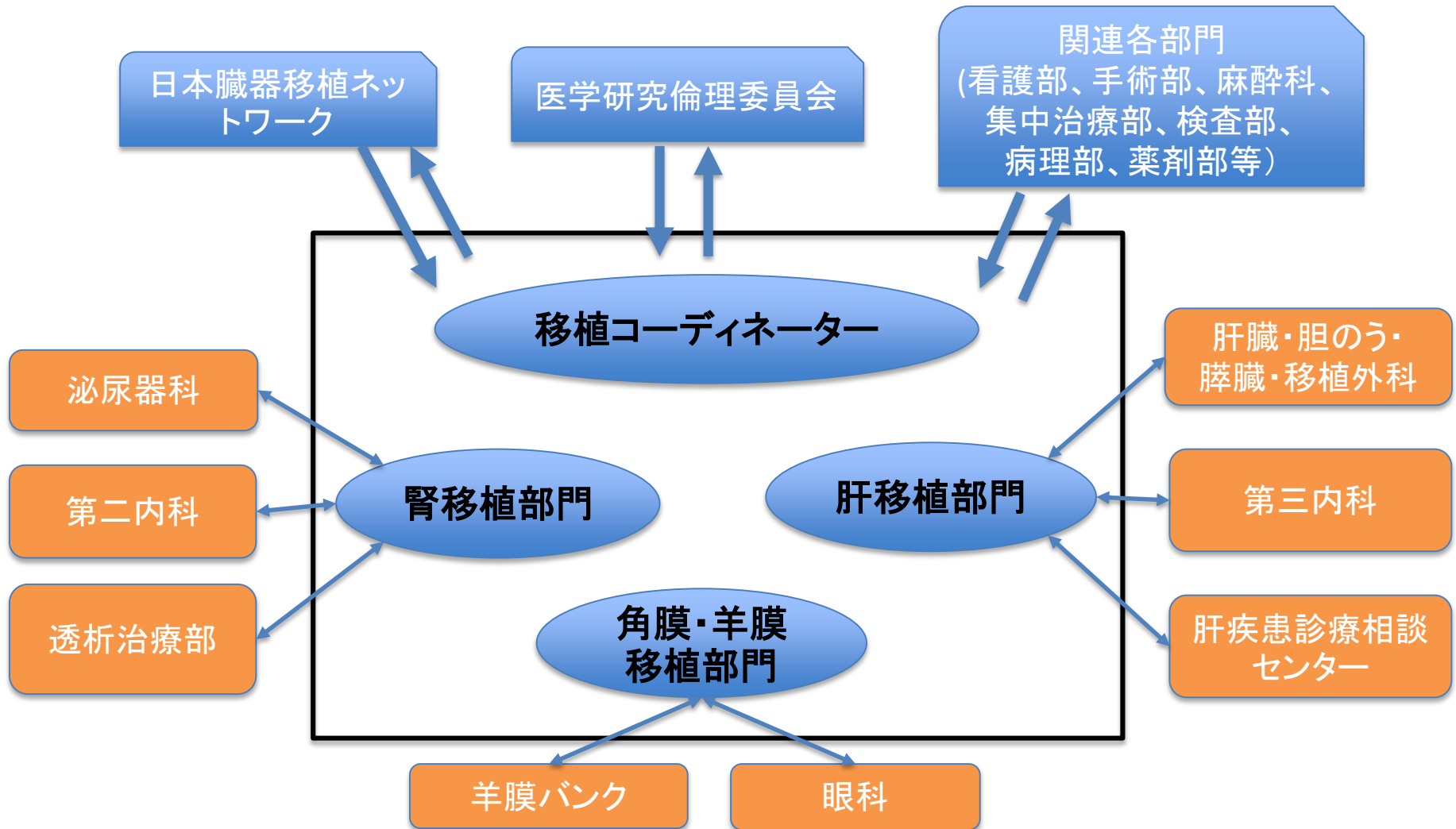
(参考) 移植コーディネーターの役割

移植希望家族からの相談対応、生体ドナーの術前・術後のケア、日本臓器移植ネットワーク及び関連機関・部門等との密な連携などが求められます。

※送付資料 2 枚(本紙を含む)

本件に関する問い合わせ先
愛媛大学医学部附属病院
総務課企画・広報チーム
電話 089-960-5943

臓器・組織移植センターの概要



期待される効果

- 1) 移植コーディネーターの配置・育成により、移植医療を安全かつ円滑に遂行できる。
- 2) 紹介や相談患者数が増え移植症例数が増加する。
- 3) 移植医療推進のための社会活動も積極的に行える。
- 4) 羊膜バンクから他施設への安定した羊膜の供給が行える。